

# 富山市定例市長記者会見（令和4年1月4日）

## ■冒頭

市長

皆さん、明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

それでは、今年最初の定例記者会見を始めさせていただきます。

## ■「富山市SDGsウィーク」の実施について

市長

SDGs、「持続可能な開発目標」は、皆さんご存知のとおり、「世界中の誰一人取り残さない」をテーマに、持続可能な社会を構築していくための共通目標を掲げたものであり、市民レベルでも、一人一人がライフスタイルの中でSDGsを認識していくことが重要であると考えております。

そこで、SDGsのより一層の普及展開に向け、多くの市民がSDGsを「知り、理解し、実践する」機会を創出することを目的として、1月23日から30日にかけて、市内各所において集中的にSDGs関連イベントを開催する「富山市SDGsウィーク」を今年も実施いたします。

期間中は、お手元の配布資料のとおり、誰もが生きやすい「地域共生社会」の実現に向けて語り合う「トークカフェ」や、農業者等を対象とした「6次産業化セミナー」、SDGsに取り組む市内の団体やお店を巡る「ツアー」等、多彩なイベントを開催いたします。

1月29日には富山国際会議場において、まず午前10時から、高校生や大学生などが主体となってSDGsの推進に取り組む市内外の団体による「富山市SDGs学生リーダーズミーティング」を開催いたします。

また、午後1時30分からは、「富山市SDGs推進フォーラム」として、俳優の鈴木福さんによるゲストトークや、「ともに手を取り合って創る未

来～幸せのカタチを富山から～」と題しまして、ゲストの鈴木 福さんや、市内を中心に SDGs の推進に取り組んでおられる方々を交えたパネルディスカッション等の実施を予定しております。

こうした取組みが、多くの市民の皆さんに SDGs について考えていただく機会となり、SDGs のより一層の普及展開につながるものと考えております。

## ■ 「富山市限定ハローキティ」マンホールカードの配布開始について

市長

本市では 2020 年からシティプロモーションの一環として、ハローキティとコラボレーションし、富山市限定のオリジナルハローキティとして、市内を走行する「まいどはやバス」のラッピングや、「広報とやま」の紙面を飾るなど、様々な取組みを実施してきました。

昨年 10 月には、新たなシティプロモーションの一環として、本市の下水道事業への理解や関心を高めていただくことを目的に、富山市限定のハローキティをデザインした下水道のマンホールを製作し、中心市街地に計 5 箇所設置するとともに、本市の「とほ活アプリ」とも連携し、昨年 11 月までの期間限定で「マンホールラリー」を開催し、歩き、楽しみながら下水道と親しむという機会を持ったところであります。

そして、この度、お手元の資料に写真を掲載しておりますように、富山市限定のハローキティをデザインしたマンホールカードを作成し、配布することといたします。

カードの配布は、本年 1 月 15 日（土）から、湊入船町の「とやま自遊館」において、1 人 1 枚までとして行います。

本市のマンホールカードは、今回の「富山市限定ハローキティ」により、計 6 種類となります。

ご存知の方もおられるかと思いますが、マンホールカードには、マンホールの位置情報や、マンホールのデザイン採用に至る由来などの情報が記載されております。

本市では、日本下水道協会等が運営する「下水道広報プラットフォーム」のマンホールカード企画第2弾から参画し、2016年8月に、本市のカード1種類目として、神通川と常願寺川に挟まれる浜黒崎浄化センターにて下水が処理される「浜黒崎処理区」のマンホールに採用されている薬用植物「あざみ」をデザインしたカードを作成し、富山市ガラス美術館にて配布をしております。

それ以降も、2種類目として「水橋橋まつりと東西橋」、3種類目として「神通川に架かる船橋と常夜灯」、4種類目として「路面電車と富山城」、5種類目として、昨年8月に「北前船 廻船問屋 森家」のマンホールカードを作成し、市内各所にて配布しております。

各配布場所の詳細につきましては、本市上下水道局のホームページ及び「下水道広報プラットフォーム」のホームページに情報を掲載しておりますのでご確認ください。

本市としては、マンホールカードの収集を通して、より多くの皆さんに「コレクションする楽しみ」を感じていただくとともに、ぜひ、その土地に足を運んでいただき、地域の歴史や文化に触れていただければと考えております。

今後も、新たなデザインマンホールの製作や、マンホールカードの作成、配布を行うことにより、市内のみならず、全国へのシティプロモーションにつながるよう取組みを推進してまいりたいと考えております。

本日の発表項目についての説明は、以上であります。

## ■ 報告事項

市長

次に、報告事項がございます。お手元に資料をお配りしておりますが、新型コロナウイルス感染症に関する取組みについて報告いたします。

本市の新型コロナウイルス感染症の感染状況については、皆さんに大変なご協力をいただいて、昨年秋以降、比較的落ち着いた現状にあると認識しております。

しかしながら、世界的に猛威を振るっているオミクロン株については、昨年 11 月に、国内で初めて陽性者が確認されて以来、12 月下旬には、大阪府や東京都などで市中感染が確認され、12 月 27 日には、富山県内でも陽性者が確認されたところでもあります。

本市のオミクロン株への対応については、国の方針に基づいて、オミクロン株の濃厚接触者に、陽性者と接触してから 14 日間、宿泊療養施設にて待機していただいているところであり、仮にオミクロン株の陽性者が判明した場合には、医療機関に入院していただくこととしております。

オミクロン株は、感染力が非常に強いとされておりますので、市民の皆様には、引き続き、マスクの着用、咳エチケット等の徹底や「3 密」の回避等、これまで以上に感染予防対策の徹底をお願い申し上げます。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種について、ご報告申し上げます。

本市での、接種対象となっている 12 歳以上の市民全体の接種状況につきましては、1 月 3 日現在で、初回接種として 2 回の接種を完了した方が 334,080 人、12 歳以上の市民（約 37 万 5 千人）に対する接種率としては、88.9%となっております。本当に皆さんに感謝を申し上げます。

また、昨年 12 月からは、医療従事者を皮切りに、3 回目となる追加接種を始めており、1 月 3 日現在で、追加接種を受けた方は 3,178 人となっております。

追加接種につきましては、2 回目の接種から、原則 8 か月以上経過した 18 歳以上の方に対して、1 回接種を行うこととされておりますが、昨年 12 月に、国から 8 か月以上の経過を待たずに追加接種を実施する場合の考え方が示されたところでもあります。

本市でも、対象となる方について、追加接種の時期を前倒しして実施することといたします。

まず、2回目接種から6か月以上経過した後に追加接種することができる方として、1つに医療従事者等、2つに高齢者施設等の入所者及び従事者、3つに通所サービス事業所の利用者及び従事者、4つに病院及び有床診療所の入院患者、この4つが国から示されたところであります。

このうち、医療従事者等と高齢者施設等の入所者及び従事者につきましては、国からは優先して追加接種を実施することとされております。

また、通所サービス事業所の利用者等や病院等の入院患者につきましては、国からのワクチン供給等の状況により、前倒しを実施できる人数が変動します。

まずは、各施設における前倒し接種の意向や、接種体制の確保状況、対象となる人数等を調査した上で、できる限り前倒しして接種できるよう調整してまいりたいと考えております。

次に、65歳以上の高齢者のうち、今ほど申し上げた「6か月以上の経過で接種できる方」を除く方々につきましては、2回目接種から7か月以上を経過した後に追加接種ができるよう、接種券の発送を前倒ししたいと考えております。

具体的には、令和3年6月中に2回目接種を終えられた方には、1月20日（木）と1月24日（月）の2回に分けて、接種券を発送いたします。

また、令和3年7月の第1週に2回目接種を終えられた方には、1月27日（木）に接種券を発送し、令和3年7月の第2週以降に2回目接種を終えられた方には、接種が可能となる7か月経過日の前に接種券が届くよう、1週間毎に発送してまいります。

初回接種時と同様に、接種券が届いた方から、個別接種、集団接種の予約が可能となりますが、予約の開始日は令和4年1月21日（金）、接種の開始日は令和4年2月1日（火）としております。

接種できる場所がございますが、個別接種につきましては、初回接種時の約 170 か所よりも多い、市内約 200 か所の医療機関にご協力いただけることになりました。

また、市が実施する集団接種につきましては、市保健所を中心に開設することとし、それに加えて、富山国際会議場など、市内 14 か所の会場を巡回して開設することとしております。

なお、接種場所の詳細につきましては、市広報 1 月 20 日号や、市特設 WEB サイトに掲載してまいりますので、ご確認いただきますよう、お願いいたします。

次に、使用するワクチンについてですが、追加接種では、初回接種時と異なる種類のワクチンを接種する、いわゆる「交互接種」も可能となっており、mRNA（メッセンジャー・アールエヌエー）ワクチンを使用することとされております。

本市でも、ファイザー社製と、武田／モデルナ社製の 2 種類のワクチンのどちらかを接種いただくこととなります。

個別接種を実施する医療機関の大部分では、双方のワクチンを併用いただくこととしており、接種施設や接種日によって使用するワクチンが異なります。

また、市の集団接種では、全ての追加接種において、武田／モデルナ社製のワクチンを使用することとしております。

こうしたことから、接種予約の際は、接種施設や日時、ワクチンの種類をあわせて選んでいただくこととなります。

双方のワクチンとも、効果や安全性については遜色ないものとされており、このことについて記載されたリーフレットを接種券に同封しておりますので、予約の際には参考としていただければと思います。

いずれにいたしましても、新型コロナウイルスワクチンの感染予防効果等は、接種から時間が経過するにつれて軽減するとされておりますので、市民の皆様には、感染拡大防止や重症化防止の観点から、自分や大切な人と社会全体を守るため、早めの追加接種をご検討いただきたいと思います。

ります。

私からの報告は以上です。

---

## ■ 質疑応答

### 記者

富山市が今年度からビジョンの策定を進めている「スマートシティ政策」は ICT 技術を活用し、住む場所に関わらず市民サービスの向上を目指すものですが、一方で、これまで市が進めてきた「コンパクトシティ政策」は中心部への居住を誘導するものであり、この 2 つの政策は矛盾する恐れがあるとの指摘もあると思います。改めて、今後の富山市のまちづくりの進め方について、考えをお聞かせください。

2 点目として、LGBTQ など性的少数者のカップルを公的に認める「パートナーシップ制度」について、県が導入を検討しています。

この制度について、富山市としてどのような姿勢で臨まれるのか、昨年末の新聞紙面でも若干掲載されておりましたが、改めて考えをお聞かせください。

### 市長

まず、最初のご質問ですが、本市が推進するスマートシティの取組みがこれまでのコンパクトシティ政策と相反する部分があるのではないかと、いう趣旨でのご質問です。

昨年、本市がスマートシティを目指していくにあたって、「富山市スマートシティ推進ビジョン検討有識者会議」を開催（令和 3 年 11 月 26 日）しておりますが、その中で発言があった、ほんの一部分が報道されたというふうに私は認識しております。

この会議には、私自身も全体を通して出席して、有識者の方々のいろいろなご意見を伺い、時には私からもこういうことができないかと問いかけたりということで、いわゆるフラクナ会議だったと思っております。

そして、この日の会議の中で、「コンパクトシティ政策とスマートシティ政策が相反する」というような否定的な意見はなかったと認識しております。

むしろ、コンパクトシティ政策で世界的に評価されるくらい大きな成果を上げてきた富山市だからこそ、いかにしてコンパクトシティとスマートシティの融合を図り、さらなる成長を遂げていくのかといったことについて、前向きな議論がされたと思っております。

実際に、有識者会議の座長である、早稲田大学理工学術院の森本<sup>もりもと</sup> 章倫<sup>あきのり</sup>教授からは、

1 つに「富山市のコンパクトシティ政策は世界的に評価されているが、スマートシティといかに融合できるか、あるいは、相乗効果をどのように出していけるかが勝負だと考えている。」

2 つに「スマートシティとコンパクトシティの融合は、富山市だからこそ考えなければならない重要なテーマだ。」

3 つに「コンパクトシティ政策の『団子』の中と外の両方の関係性を考えた政策にすることが大切であり、スマートシティという新しい技術を使って、中山間地等も含めて豊かにしながら、よりおいしい『団子』を作っていくような作戦を取れば非常に良いのではないか。」

などといった前向きなご意見をいただいたところであります。

「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」については、皆さんご承知のとおりでありますし、私自身も（機会を捉えて）何度も、これを深化させていくということを申し上げてきました。

少子高齢化、人口減少が進んでいく中で、いかに都市に活力、活気を与えながら行政コストを削減していくのかという都市経営の一つの手法でありますので、これはこれでしっかりと進めていきたいと思っております。

その一方で、スマートシティ政策は、ICT 等の新技術を活用することにより、行政サービスの向上や市民一人ひとりの生活の質の向上を目指していくというものであります。

あるいは、事業活動においては新たなイノベーションを起こしていくということだと思っております。



そして、スマートシティ政策は、コンパクトシティ政策の果実を市域全体に広く行き渡らせることを目的としておりますので、本市のコンパクトシティ政策を深化させるための重要なツールの1つであります。

このように、本市がこれまで取り組んでまいりました「コンパクトなまちづくり」を補完し、さらに発展させるものがスマートシティ政策であり、2つの政策が持つ強みや特徴を生かしていくことが大変重要であると考えております。

私としては、この両方を進めることで街がバラバラになったりする矛盾は生じないと考えており、むしろ相乗効果で、(市域の)どこに住んでも質の高い生活を送ることができるということだと思えます。

しかも、都市構造上、高齢化が進んで、人口減少がある程度進んでも、富山市として、しっかりと税収を確保しながら、それを政策的経費として市域全体に投資していけるという行政経営が担保できるものだと考えております。

いずれにいたしましても、来年度中に「(仮称)富山市スマートシティ推進ビジョン」をしっかりと作り上げて、コンパクトシティの深化と「富山市版スマートシティ」の実現にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2つ目のご質問についてです。性的少数者への偏見や差別をなくしていくことは非常に大事だと考えております。

国が人権啓発活動の重点事項の1つとして掲げており、これまで国・県・市、それぞれの立場から、非常に大事な事柄として啓発活動に取り組んでまいりました。

本市においては、「富山市人権教育・啓発に関する基本計画」にこのテーマを盛り込んでおり、これまで人権啓発フェスティバルや職員研修などの機会を捉えて、啓発に努めてきたところであります。

今回、県が導入を検討している「パートナーシップ制度」については、

同性同士のカップル等をパートナーとして自治体が認めることで、そのカップルが行政や民間サービスにおいて、婚姻に準じたサービスを受けることができるものであり、性的少数者の権利を擁護する点で有効な制度であると認識しております。

現在、県から、本制度の導入によって、どのようなサービスを提供することができるのかという照会を受けており、先行自治体が行っている取り組み事例を参考としながら、可能なものからサービス提供につながるよう検討してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、私の公約に掲げております、あらゆる価値観を大切に作る社会を作ること、富山市にとっても非常に大事なことでもありますので、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

---

記者

ワクチン接種について、今回報告のあった追加接種について、医療従事者等や高齢者について、それぞれ時期を決めた形で前倒しをするということだと思っておりますが、これらは全て国に準じた形になったのか、それとも市独自の考えがあって、こうした形になったのかという点をお聞かせください。

市長

国（の方針）に準じた形です。詳細は福祉保健部にお尋ねください。

記者

SDG s ウイークの開催に関して、（ゲストトーク等を）鈴木 福さんに依頼した理由について、お聞かせください。

市長

鈴木 福さんは SDG s の取組みに熱心な方で、たしか、正月の関連番組にも出演しておられましたが、自分たち若者が取り組めるような SDG s ということをいつも考えながら、それを行動に移しておられるということで、

そうしたことも含めてのことです。

今回の（イベントの）対象は、いわゆる若者世代であります。

知名度も非常に高く、皆さんが親しみを持っておられる鈴木 福さんが（この趣旨に）ベストではないかということで、お声かけをさせていただいたということです。

---

記者

ワクチン追加接種の件でお伺いします。個別接種で使用されるワクチンについては、大部分の医療機関がファイザー社製、武田／モデルナ社製の双方を使用され、接種施設や接種日によって、使用するワクチンが異なるということでした。

私の勝手な想像なのですが、2回目接種まではファイザー社製のワクチンを接種している方がかなり多く、そうした方々は、追加接種でもファイザー社製を希望されるケースが多いのではないかと考えています。

そういう中で、国からのファイザー社製ワクチンの供給割合は少な目だと伺っているのですが、どのようにして施設や日程の割振りを行われるのか、考えをお聞かせください。

市長

（使用するワクチンは）基本的には国からの供給ですので、県と情報交換をしながらだと思いますが、国からどのワクチンがどれくらいの割合で届くのかによって、先ほど基本的な考え方を申し上げましたが、県や市町村への供給割合も変わってくるということになります。

我々もその情報を待つということだと思えます。今は基本的な考え方がか申し上げられないというところではあります。

記者

もう1点、市長に就任されて初めての年末年始をどのように過ごされたのでしょうか。

市長

年末は2日間、大掃除をしていました。非常に筋肉痛になりましたが、しっかり掃除ができたと思っています。

年始については、県議のときからお客さんが結構（家に）来られます。

まず、（私が）還暦を迎えるということで、地元の稲荷神社に行き、還暦のお祓いを受けました。

寅年の年男である幼馴染6人と久しぶりに会って、「早くも還暦になってしもたじゃ」などと話しながら楽しく過ごし、みんなで還暦を迎えることができ良かったなと思っています。

（正月）1日、2日はそうやって、いろいろな方が来られますので、新年のご挨拶をしたり、今年はどういう年にしたいなどということ話しながら過ごしました。

3日の午前中は牛岳温泉スキー場へ行って、十数年ぶりにスキーをしました。

それまではショートスキー—短い板を使って、スキー靴さえ履けば、ストックはいらないというもので、これは（これまでも）少しずつやっていたのですが、（今回）久しぶりにスキーをして、意外と出来るものだと思います。自転車に何年も乗っていなくてもすぐに乗ることができるのと同じことなのではないでしょうか。さすがにスピードを出すことは危なくてできませんでしたが。

その日は天気がとても良く、ファミリー層やスノーボーダーの方々もたくさん来ておられました。今年は積雪がしっかりとあって良かったなと感じながら、たまにはスキーもしないといけないなと思っています。

そして、今日、この場に立っているということでもあります。

明日は、地方卸売市場の初競り（初市式）がありますので、楽しみにしています。

---

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課